

美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

CONTENTS

館長のつぶやき	2
BIREKI・レポート	3
いさはやの生活	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.24



新緑を借景に楽しむことができる
プレゼンテーションウォール
(4月上旬～5月下旬開放)



左上：染付猩々宴文大徳利（亀山焼） 美術・歴史館蔵

「思い出の場所」

4月下旬に雲仙市吾妻町側から諫早干拓堤防道路に車を走らせました。途中、堤防道路の駐車場で休憩し、そこから見える対岸の「いこいの村長崎」へ懐かしさを覚え行ってみることにしました。実は、私の家族にとっては思い出の場所なのです。30年程前からしばらくは、毎年今回と同じ時期にここを訪れていました。あの頃、雲仙などが眺望できる土手にはツツジが育てられ遊歩道もあってきれいでした。そして、その土手には多数の「蕨」が自生し、家族で「蕨とり」を楽しんでいたのです。昼食もそこで弁当。家族の楽しい行事でした。テニス場を借りてテニスに興じたこともあります。子供達も大きくなって、いつしかその行事も無くなりました。今回久しぶりに訪れてみて土手は草木の繁みになっていました。若干の淋しさを感じながら家族に知らせると、皆「蕨とり」のことをよく覚えていました。どの場面かが映像として切り取られ残っていたのでしょうか。家族皆で楽しんだ30年程前の思い出を再び共有できたことは喜びでした。

時が経つと“もの”は様々に変化していきます。しかし、その時々楽しかった思い出は、どんなに時が経っても褪せることなくその時のままで残り、ちょっとしたきっかけで呼び起こされ心を豊かにしてくれるのだなと改めて思いました。

さて、今年度も諫早市美術・歴史館が、市民の皆様にとりまして、日常のあわただしさを忘れ感動できる癒しの空間でありたいと思っています。また、諫早の歴史や民俗、寺院や市内小学校区の史跡を巡る探訪など、各種講座を企画しております。皆様の興味や関心のある講座をぜひ受講していただき、新たな発見や学びの機会にさせていただけると幸いです。

一年を通して「学びの空間」「発見の空間」「感動の空間」そして「癒しの空間」となるように努め、皆様に「親しみのあるミュージアム」を目指して参ります。多くの皆様の御来館をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度最初の企画展「飯盛町江の浦熊野神社天井絵・絵馬展」（熊野神社天井絵・絵馬は市指定文化財）は好評のうちに終了いたしました。多数の方に鑑賞いただきありがとうございました。

5月30日（日）からはコスモスを生涯描き続けられた「荒木幸史展」を開催します。美しいコスモス画の数々をご堪能ください。ところで、「コスモスは秋の花なのになぜこの時期に？」という疑問もおありかと思いますが、それには一人の作家との関わりがあります。諫早市では毎年5月最後の日曜日に諫早市芸術文化連盟主催により、仲沖の家で執筆活動を続けられ芥川賞を受賞された作家野呂邦暢氏を追悼する「菖蒲忌」が行われます（残念ながら今年度もコロナウィルス感染リスク回避のため中止されます。）。実は、この野呂邦暢氏と多良見町ご出身の「荒木幸史」氏には親交があったのです。このお二人の親交も本企画展の大切なテーマにしたいとの思いで、「菖蒲忌」の時期に開催することといたしました。諫早図書館様のご協力により、お二人の親交の証が詰まった野呂邦暢氏の作品や自筆原稿なども併せて展示します。荒木幸史氏の作品を堪能していただくとともに、諫早を代表する画家と芥川賞作家の交流についても新たな発見をしていただけると幸いです。

切手の中
の
アート展

2月20日(土)～3月14日(日)



1970～2000年に国内で発行された切手から、日本初の記念切手や国宝、絵画など様々なモチーフがデザインされた切手を紹介しました。自分の好みや感性という新たな視点で切手を楽しむ契機となったようです。

M・マリーニと
M・シャガール
版画展～長崎県美術館コレクションによる～
2月27日(土)～3月28日(日)

長崎県美術館のコレクションより、戦後イタリアを代表する彫刻家マリノ・マリーニによる「馬と騎手」シリーズと、20世紀を代表するユダヤ人前衛芸術家マルク・シャガールの「サーカス」シリーズを展示しました。

野口彌太郎
作品展

3月20日(土)～4月4日(日)



例年、春分の日の時期に開催される第4回ミモザ忌の企画です。諫早市にゆかりの深い洋画家・野口彌太郎をしのび作品展を開催しました。

来館者20万人に到達！

令和3年2月7日、来館者が20万人に到達しました。20万人目となったのは高来中3年生の坂口梨々愛りりあさん（後列右から2人目）。作品を出品した「小・中学校美術展」の観覧のためにご家族で来館されました。



【諫早市美術・歴史館】

ホームページ



インスタグラム



いさはやの生活

番外編

「飯盛町江の浦熊野神社天井絵・絵馬展」 2021/04/17-05/16 より

天井絵・絵馬は神仏への奉納品です。長崎県内での天井絵というと長崎市の野母崎観音寺や矢上神社のものが有名です。天井絵は壁画の延長で天井一面(鏡天井)に描いたもののほかに、格子で40cm四方の区画をつくり、その一つ一つに描いたものがあります。そこに描かれた絵は奉納する人々の希望や注文で、花卉や風景、動物、人物、縁起物など様々です。熊野神社の天井絵は後者で、格天井で区画を多く設けるのは、それだけ人の信仰、参加があり、熊野神社がいかに多くの人の心、暮らしの拠り所であったかを物語っています。

今回、展示したのは168点、168区画の天井絵で、描かれた絵をみると、いくつかの特徴があり、その一つが長崎派の影響が強いということです。花瓶に白い花を描いた西洋画を思わせる静物画風なものほかに、「虎」は長崎の唐絵目利であった荒木君瞻を、花卉に岩(石)の描き方や配置などは長崎派の絵を見るようです。こうした長崎派のほかにも著名な絵師の画風を学んだようで「二匹の犬」は円山応挙の描く犬に似ています。

ところで、こうした作品を描いた絵師ですが、その参考になるのが絵馬にある金子海堂(1870-1951)の名です。天草郡本渡町の絵師で、人物画を得意としていたといわれています。また小柳藤兵衛の名もあり、そのご子孫である小柳家には絵師が泊まり込みで絵を描いていたと伝えられています。絵馬というと合格祈願、安産祈願など人々の切実な願いをしたためた小絵馬を寺社の境内でよく見かけます。これは個人的で現世利益的な面が強いのですが、このほかにサイズが大きい大絵馬があり、歴史上の出来事や人物を題材にしたものが多いのが特徴です。熊野神社の絵馬は西郷隆盛や豊臣秀吉を描いてあり、まさしく大絵馬です。絵馬の枠には改築に関わった天草郡鬼池村宮大工荒木亦市、小川國太郎の名が奉納者としてあります。絵馬には海堂の落款もあり、作品としての意識が窺え、得意分野の人物画を奉納したと考えられます。絵馬の枠には明治三十九(1906)年丙午十二月四日とあり、この年に改築し、その記念に海堂が描いたものです。海堂の得意を念頭に、この天井絵を見ると様々な様子的人物や仙人が多くあります。これについて人物を得意としたことからではとも推察され、そうであるなら天井絵は海堂の作ではということが考えられます。人物画のなかに日露戦争(1904-05)の時であろうと思われる軍人の絵がありますが、この戦役は当神社の明治39(1906)年の改築前年のことで誰でもが知っている大きな出来事で、それを取り入れたものです。ですから、この一枚は天井絵の製作年が日露戦争ころであったであろうことを示しています。同時にこの時期、改築時に絵馬を描いた海堂が天井絵にも関わったであろうことを裏付けるものともなっています。なお、今回展示の熊野神社の天井絵168点、絵馬2点ですが、これに関わった絵師が海堂一人だったのか、工房として関わったのか、もしくは他に参加があったのかなど今のところ分かっていません。



天井絵



絵馬(秀吉耐忍之図)

いさはやの歴史 一諫早駅一



行發箱眞寫口山 津唐

驛 早 諫

(線崎長)

『諫早驛』個人蔵

諫早駅は、明治31年(1898)11月、鳥栖〜早岐〜長崎間の開通により開設された駅です。明治44年(1911)8月、島原鉄道の諫早〜本諫早駅間が延伸し、諫早駅は長崎本線と島原鉄道の駅となりました。

昭和9年(1934)、諫早〜湯江駅間の有明西線が開通し、長崎本線・島原鉄道・有明西線の駅となり、同年6月には2代目の駅舎が建てられます。また、同年9月には、肥前山口〜諫早駅間が全通し、長崎本線・島原鉄道・有明線の駅となります。さらに同年12月、路線名変更により、大村線・島原鉄道・長崎本線の駅となります。

九州新幹線(西九州ルート)の計画に伴い、平成28年(2016)、仮駅舎に移転。平成30年(2018)8月、新駅舎、東口と西口を結ぶ自由通路が供用開始されます。令和4年(2022)秋頃には、新たに西九州新幹線の駅となることから、大村線・島原鉄道・長崎本線・西九州新幹線と4路線の駅となります。

上記の絵葉書は、大村方面より撮影されたもので、左の建物が開設当時の駅舎です。撮影年代は2代目駅舎ができる昭和9年(1934)以前と思われます。

飯盛町江の浦・熊野神社の天井絵

熊野神社の天井絵には、虎・象・鳥など代表的な動物の絵や風景画と並び、多くの『花卉図』が描かれています。天井に花が描かれるようになったのは室町時代に將軍足利義満によって行われた平岡八幡宮の再建時が初めてだったと言われています。

花卉図の「卉（き）」は草を意味し、花卉図とは花が咲く植物や草花が描かれた絵のことです。色鮮やかな花たちは、時代を超えて今も見ると感動を与え続けています。



古文書の部屋

花押(かおう)と印章【二】

古文書の中に、文書の作成者および文書内容の承認を明確にする「しるし」として数多く使用されたものとして「花押」と「印章」があります。それぞれ使用・流行した時代は異なりますが、文書に権威や意味づけを加えるため重要なものになります。前回ご紹介した「花押」に続き、今回は「印章」についてご紹介します。

印章とは

特徴

印・印章(印鑑・はんこ・判)は、行政文書を始めとした様々な文書に**個人の意思**を表したり、権利や義務を確認するために用いられるものです。

歴史は古く、紀元前5000年頃メソポタミアに始まり、インドではインダス文明、中国では殷代(紀元前1300~1050頃)から使用されました。

日本では後漢の光武帝から与えられたという「漢委奴国王」(かんのわのなのこくおう)の金印が最も古いものですが、本格的に使われ始めるのは奈良時代で、律令国家体制下で**中国の隋・唐の制度を模倣**した官印です。しかしその後、律令制の崩壊と自署の草書体から変化した花押の流行により、平安時代末期に一時的に衰えを見せることになります。

変遷

鎌倉時代になると**中国禅宗文化の流入**により書画の「落款」(らっかん)や「藏書印」などの私印が多用されていきました。戦国期には再び公権力を帯びた印を用いた「**印判状**」(いんぱんじょう)が、**大名権力を誇示する役割**をもって流行しました。さらに江戸時代には、行政文書が発達する中で、印章の使用が**一般庶民にも普及**していきました。

明治以降の慣習や法令により印章の使用は、社会生活上便利で、**必要不可欠な意思伝達・確認手段**として確立していますが、近年ではリモートワークの推進や行政手続きの簡素化のため、申請書等への**押印の見直し**が進められています。また使用用途が多様化し、寺院・神社やお城が発行する「**御朱印**」や「**御城印**」が行楽目的として親しまれています。

参考

諫早家第13代茂喬公、第17代家崇公が使用していた印章の一部。(江戸時代・当館所蔵)



藤氏茂喬
(第13代茂喬)
縦2.8×横2.8×
高さ7.0cm 玉製



雁城
(第17代家崇)
縦3.2×横3.2×
高さ6.1cm 玉製



上り藤文
径4.8×
高さ4.3cm
木製

参考文献：「図録 古文書入門事典」(若尾俊平著/柏書房)
「古文書入門ハンドブック」(飯倉晴武著/吉川弘文館)



発行日：令和3年5月

企画展

観覧料/無料

荒木幸史展

-親友・野呂邦暢との再会-

会期

令和3年5月30日(日)～6月13日(日)

10時～19時 ※最終入場は18時30分

休館日：毎週火曜日

会場

企画展示室

諫早大水害展

会期

令和3年7月3日(土)～8月1日(日)

10時～19時 ※最終入場は18時30分

休館日：毎週火曜日

会場

ホール



おうちミュージアムに参加しています。

北海道博物館が呼びかけを行う「おうちミュージアム」は、全国のミュージアムが「おうちミュージアム」という共通の名前を共有して、館内の情報を発信するものです。「おうちミュージアム」には、全国200館を超えるミュージアムが参加しています。

美術・歴史館では収蔵資料等をピックアップしてご紹介しています。おうち時間にぜひご利用ください。



美歴HP

<https://www.city.isahaya.nagasaki.jp/post07/12089.html>

講座・イベント

聴講料/無料

館長講座

『諫早菖蒲日記と諫早の歴史』

とき 令和3年6月20日(日)

13時30分～15時

ところ 美術・歴史館 2階研修室

講師 堀 輝広(美術・歴史館館長)

民俗講座

『昭和の漁撈～有明海・諫早湾①～』

とき 令和3年6月27日(日)

13時30分～15時

ところ 美術・歴史館 2階研修室

講師 川内 知子(美術・歴史館専門員)

※上記講座は申し込みが必要です

定員各30名(抽選)

講座名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、以下の方法でお申し込みください。

・はがき(〒854-0014 諫早市東小路町2-33)

・ファックス(0957-24-6633)

・メール(bireki@city.isahaya.nagasaki.jp)

申込締切 令和3年6月6日(日) ※必着

※お電話での申込はできません。

- ◎マスクの着用や入館時の手指消毒をお願いします。
- ◎発熱等の症状がある方のご利用はお控えください。
- ◎イベント等は、今後の状況によっては中止・延期となる場合がありますのでご了承ください。

貸館の利用について

美術・歴史館のホール、企画展示室、研修室はどなたでも利用できます。(要予約・有料※減免制度があります)
ただし、利用目的が美術(写真、漫画を含む)、華道、茶道及び歴史などに限られております。詳細は、お気軽にお尋ねください。

「来館者への連絡票」の記載について

入館の際、連絡先等の記載をお願いしております。新型コロナウイルス感染症の疑いが生じた場合のみに使用するものです。皆様のご協力をお願いいたします。

―編集後記―

桜、ツツシ、新緑に癒されながら、あっといふ間に5月になりました。昨年度は、イベントの中止などもありましたが、来館者の皆様のご協力により、企画展や講座など実施することができました。

今年度も引き続き、感染症対策にご協力いただき、ご来館ください。

↑お知らせにもありますが、「おうちミュージアム」で資料を紹介しています。現在掲載しているものは、「中世～戦国編」「江戸～明治編」「やきものギャラリー」です。おうちでの美歴もお楽しみください。
(野田さやか)